

国語科 学習指導案

東大阪市立弥刀小学校

指導者 富田 裕一

1. 日 時 令和6年11月14日(木) 第5時限 14:15～15:00
2. 場 所 第1学年2組教室
3. 学年・組 第1学年2組(18名)
4. 単元名 せつめいの文しょうをよむ「いろいろなふね」(東京書籍・一年下)
5. 単元の目標

(1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。

[知識及び技能] (1)ク

(2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

[思考力・判断力・表現力等] C(1)ア

(3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

[思考力・判断力・表現力等] C(1)ウ

(4) 言葉がもつよさを感じるとともに、互いの話に関心を持ちながら聞き合い、調べたり説明したりすることについて見通しをもって考え、伝え合おうとする。

「学びに向かう力・人間性等」

6. 本単元で取り組む言語活動

乗り物について調べたことをカードにまとめる。

7. 単元の評価規準

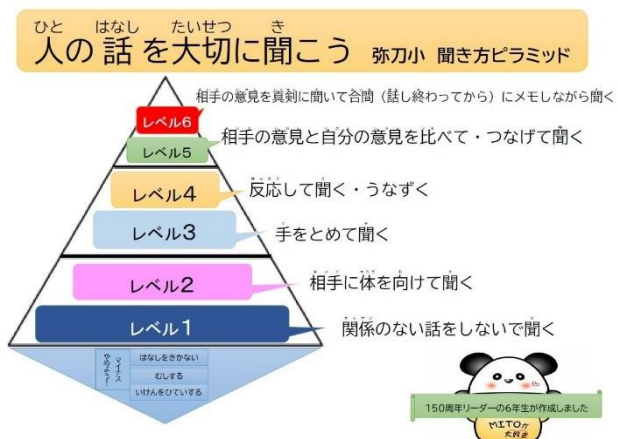
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク	①「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。C(1)ア ②「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ	言葉がもつよさを感じるとともに、互いの話に関心を持ちながら聞き合い、調べたり説明したりすることについて見通しをもって考え、伝え合おうとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

省略

省略



(2) 教材観

本教材は、船には、人や物を運ぶためのもの、魚を捕るためのもの、火事を消すためのものなど、いろいろな種類があり、それぞれの役目に合うように工夫して造られていることを述べた説明文である。「どうやってみをまもるのかな」に続き、読み手に伝わりやすい構成で書かれていることがこの「いろいろなふね」の良さだと考える。説明文の第一歩として、どの船の場合も同じ構成で書かれていて、その構成の良さを理解したうえで他の乗り物について調べて自分で説明文（カード）を作るという活動につなげる。乗り物という題材は児童にとって興味をもちやすいものであるので、それぞれの船の特徴を文や写真から、児童が意欲的に読み進められるよう促したい。

まず客船とフェリーボートは、役目・つくり・できることに少しの違いがある。役目に関しては、客船は「たくさんの人をはこぶためのふね」と表現されており、フェリーボートは「たくさんの人とじどう車をいっしょにはこぶためのふね」と表現されている。つくりに関してはどちらも、人が休むことのできる客室がある。それに加えて、フェリーボートには車を停めておくところもある。

次に、漁船は「さかなをとる」ための船であり、児童が実際に乗ったり、見たりした経験は多くないと予想される。「魚を捕る」といえば、児童が思いつくもので「釣り」がある。釣りは「1匹ずつ」魚を釣ることができるが、本文にある漁船は「群れ」を見つけ、見つけた魚を網で捕ることができる。

最後に消防艇は「ふねの火じをけすためのふね」である。児童にとって身近な「火を消す」ためのものは、消火器や消防車が挙げられる。ただ、消防艇は児童にとって身近なものではないが、本文と写真をつながけながら読んでいくことで関心をもって読み進めることができる。

児童がこの教材をもとに、自分のこれまでの経験や知識を根拠にしながら考えるようにしていきたい。そのためにも、本文や挿絵から発見したことを自分の言葉で交流しながら考えることの楽しさを味わえるようにしていきたい。

(3) 指導観

本単元の重点目標は、単元目標の(3)「章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。」、としている。そこで、つけたい力を「自分の言葉で伝えよう」と設定し、「乗り物について調べたことをカードにまとめよう」という言語活動を設定する。そこでは、カードにまとめるという目的に応じて、「やく目」「つくり」「できること」を読み取る力が必要になる。また、カードという限られた範囲では、調べた文章をそのまま書き写すのではなく、大事な言葉や文を見つけて短くまとめる力が必要になる。乗り物という題材を生かし、児童が情報活用の必要性を実感し、楽しく学びながらつけたい力を確実につける学習を行う。

まず第1・2時は「初発の感想」を活用し、児童たちがどの船や、船のどこに興味をもち想像をふくらませているのかを把握する。ここで船のすごさや自分の経験によって友だちとの感じ方の違いがあることに気づかせ、さらに友だちと読み進めていきたいという意欲を引き出していきたい。また、単元のゴールである「乗り物について調べたことをカードにまとめよう」のために「この教材でどんな力をつけるのか」「そのためにどんな言語活動を行うのか」を確認し、前時でもった感想を交流することで、自分が気づいていないおもしろさに気づくことで、単元の見通しをもたせるようにしたい。

第3時でどんな船が出てくるのかに気をつけながら全文を音読し、「いろいろな」という言葉から、複数の船の事例が挙げられていることを確認して、それぞれがどこに述べられているかを確認できるようにする。

第4時～7時では、それぞれの船の内容を読み取り、それぞれの船についてわかったところや気づいたところに線を引くように伝える。そして、「なぜかというところ」という言葉を使ってなぜそこに線を引いたのかの説明を、自分の経験や実体験をふまえて発表できるようにしたい。挿絵にも注目することに気づかせ、たくさん発表できる雰囲気を作っていきたい。また、それぞれの船の「はかせのおすすめは？」と追発問することで、自分の言葉で伝えられるようにしていきたい。

第8時では、四つの船を比較し、自分が船長ならどの船を自慢するかを考えさせたい。自分とちがうところや、新しい発見などを伝え合い、次もやってみたいと学びの意欲につながるような活動を設定する。

第9・10時では、自分が選んだ乗り物について調べ、情報を整理させ、カードに書く内容を確認させる。それぞれの乗り物の「やく目」「つくり」「できること」の三つの観点が調べられているか、「やく目」「つくり」「できること」が関連しているかという二点について、確認できるように促す。

第11・12時では、作成したカードを発表し合い、よかったところや気づいたことを交流させる。その際に乗り物について初めて知ったことや、「やく目」「つくり」「できること」の分かりやすさなどについて、自分の言葉で感想を伝えさせたい。

9. 単元の指導と評価の計画（全12時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

時	主な学習内容	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	●教材文を通読し、初発の感想を書く。 ・題名から話をイメージする。 ・教師の範読を聞く。		○①		事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 【思・判・表①】〈ノート・発言〉
2	●初発の感想を交流する。 ・学習の見通しを立て、「つけたい力」を確認する。 ・乗り物カードを作成する計画を立てる。			○	互いの話に関心をもちながら聞き合い、調べたり説明したりすることについて見通しをもって考え、伝え合おうとしている。

					【主】〈ノート・発言〉
3	●教材文を読んで、内容の大体を読み取る。 ・どんな船が出てきたか音読を通して読み取る。	○	◎①		語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 【知・技】〈音読〉 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 【思・判・表①】〈ノート・発言〉
4	●きやくせんについて考える。 ・「きやくせん」について考え、「きやくせん」のおすすめを自分の言葉で伝える。	○	○②		語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 【知・技】〈音読〉 文章の中から「きやくせん」のやく目・つくり・できることなどを選び出している。【思・判・表②】〈ノート・発言〉
5	●フェリーボードについて考える。 ・「フェリーボード」について考え、「フェリーボード」のおすすめを自分の言葉で伝える。	◎	○②		語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 【知・技】〈音読〉 文章の中から「フェリーボード」のやく目・つくり・できることなどを選び出している。【思・判・表②】〈行動観察・ノート〉
6	●ぎょせんについて考える。 ・「ぎょせん」について考え、「ぎょせん」のおすすめを自分の言葉で伝える。		○②		文章の中から「ぎょせん」のやく目・つくり・できることなどを選び出している。 【思・判・表②】〈行動観察・ノート〉
7 本時	●しょうぼうていについて考える。 ・「しょうぼうてい」について考え、「しょうぼうてい」のおすすめを自分の言葉で伝える。		○②	○	文章の中から「しょうぼうてい」のやく目・つくり・できることなどを選び出している。 【思・判・表②】〈行動

					観察・ノート・発言) 「しょうぼうてい」の特徴を考え、その良さを伝え合おうとしている。【主】〈ノート・発言〉
8	●船の比較をする。 ・これまでの学習をふりかえり、どの船をじまんするか船長になって考える。		○②	◎	文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【思・判・表②】〈行動観察・ノート〉 互いの話に関心を持ちながら聞き、船の役目・つくり・できることについて考え、伝えようとしている。 【主】〈行動観察・ノート・発言〉
9 10	●自分で選んだ乗り物の「やく目」「つくり」「できること」を考えてカードにまとめる。		◎②	○	図鑑やインターネットから重要な語や文を考えて選び出している。 【思・判・表②】〈行動観察・ノート〉 互いの話に関心を持ちながら聞き、車の役目・つくり・できることについて考え、伝えようとしている。 【主】〈行動観察・ワークシート〉
11 12	●乗り物カードを作成し発表する。			◎	互いの話に関心を持ちながら聞き、車の役目・つくり・できることについて考え、伝えようとしている。 【主】〈行動観察・ワークシート・発言〉

10. 本時の展開（7/12時間目）

（1）本時の目標

- ・「しょうぼうてい」の内容を読み取り、やく目・つくり・できることなどを選び出すことができる。

- ・文章を読んで考えたことを、友だちと伝え合うことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・文章の中から「しょうぼうてい」のやく目・つくり・できることなどを選び出している。【思・判・表②】
- ・「しょうぼうてい」の特徴を考え、その良さを伝え合おうとしている【主】

(3) 展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5分 導入	1. 前時の振り返りを聞く。 2. めあてを確認する。	・今までの事例について確認する。 (掲示物)	
30分 展開	しょうぼうていはかせになろう。		
	3. 音読をする。 (1人→全体で音読) 4. 「しょうぼうてい」について考える。 5. 交流する。 (ペア→全体)	・スラスラ読みを意識して音読するよう伝える。 「しょうぼうてい」のやく目・つくり・できることについてわかったことに線を引くよう伝える。 ・「聞き方ピラミッド」を意識するよう声かけする。	文章の中から「しょうぼうてい」のやく目・つくり・できることを適切に選び出している。 【思・判・表②】〈行動観察・ノート・発言〉
	しょうぼうていのおすすめはどこ？ 6. 追発問について考える。 (ペア→全体) 7. 交流する。 8. ふりかえりを書く	・水がめっちゃとばせるところ ・火をけすことができるところ ・ふねの火じをけせるところ ・ポンプやホースをつんでいるところ ・しょうぼうていについてわかったことを振り返るように声掛けをする。	「しょうぼうてい」の特徴を考え、その良さを伝え合おうとしている。 【主】〈行動観察・ノート〉
10分 まとめ			

(4) 本時における具体的な児童の状況 (※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C) への支援
文章の中から「しょうぼうてい」の ・やく目 ・つくり ・できること など、を選び出し、「しょうぼうてい」の良さを友だ	文章の中からやく目について書かれている部分、つくりについて書かれている部分、できることについて書かれている部分を見つけ、そこに線を引くように促す。【思・判・表②】【主】

ちに伝え合おうとしている。【思・判・表②】【主】 ◎「しょうぼうていは火をけして、人をたすけると ころがすごいとおもいます。」 「しょうぼうていはポンプやホースをたくさんつん でいるところがすごいとおもいます。」 「しょうぼうていはくすりをかけて、火をけせると ころがすごいとおもいます。」	
---	--